

病理学第一

1 構成員

	平成16年3月31日現在
教授	1人
助教授	1人
講師（うち病院籍）	0人（0人）
助手（うち病院籍）	1人（0人）
医員	1人
研修医	0人
特別研究員	0人
大学院学生（うち他講座から）	5人（0人）
研究生	1人
外国人客員研究員	0人
技官（教務職員を含む）	2人
その他（技術補佐員等）	3人
合 計	15人

2 教官の異動状況

梶村 春彦（教授）（H7.11～現職）

内藤 恭久（助教授）（H8.3～現職）

渡辺 良久（助手）（H15.4.1～現職）

3 研究業績

数字は小数2位まで。

	平成15年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	15編（2編）
そのインパクトファクターの合計	44.91
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	2編
(3) 総説数（うち邦文のもの）	3編（3編）
そのインパクトファクターの合計	0
(4) 著書数（うち邦文のもの）	1編（1編）
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	3編（1編）
そのインパクトファクターの合計	1.19

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 五十嵐久喜, 梶村春彦 「パラフィン標本からのDNA抽出」 検査と技術31：5：463-465, 2003
2. Wang Y, Song J-P, Ikeda M, Shinmura K, Yokota J and Sugimura H : Ile-Leu Substitution

(1415L) in Germline E-cadherin Gene (CDH1) in Japanese Familial Gastric Cancer. Jpn J Clin Oncol 33 : 5 : 232-237, 2003

3. Otsuki Y, Tanaka M, Kamo T, Kitanaka C, Kuchino Y and Sugimura H : Guanine Nucleotide Exchange Factor, Tiam1, Directly Binds to c-Myc and Interferes with c-Myc mediated Apoptosis in Rat-1 Fibroblasts. J Biol Chem 278 : 7 : 5132-5140, 2003
4. Nakamura R, Song J-P, Isogaki J, Kitayama Y and Sugimura H : Multiple (Multicentric and Multifocal) Cancers in the Ipsilateral Breast with Different Histologies : Profiles of Chromosomal Numerical Abnormality. Jpn J Clin Oncol 33 : 9 : 463-469, 2003
5. Li Z-Y, Tanaka M, Kataoka H, Nakamura R, Sanjar R, Shinmura K and Sugimura H : EphA2 Up-regulation induced by deoxycholic acid in human colon carcinoma Cells, an involvement of extracellular signal-regulated kinase and p53-independence. J Cancer Res Clin Oncol : 129 : 703-708, 2003
6. Kitayama Y, Igarashi H, Watanabe F, Maruyama Y, Kanamori M and Sugimura H : Nonrandom Chromosomal Numerical Abnormality Predicting Prognosis of Gastric Cancer : A Retrospective study of 51 Cases Using Pathology Archives. Lab Invest 83 : 9 : 2003

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. Maekawa M, Taniguchi T, Ishikawa J, Sugimura H, Sugano K and Kanno K : Promoter Hypermethylation in Cancer Silence LDHB, Eliminating Lactate Dehydrogenase Isoenzymes 1-4. Clin Chem : 49 : 9 : 1518-1520, 2003
2. Ueki T, Tanaka M, Yamashita K, Mikawa S, Qiu Z, Maragakis N, Hevner RF, Miura N, Sugimura H and Sato K : A Novel Secretory Factor, Neurogenesis-1, Provides Neurogenic Environmental Cues for Neural Stem Cells in The Adult Hippocampus. J Neurosci 23 : 37 : 11732-11740, 2003
3. Tozawa K, Hanai H, Sugimoto K, Baba S, Sugimura H, Aoshi T, Uchijima M, Nagata T, Koide Y : Evidence for the critical role of interleukin-12 but not interferon-gamma in the pathogenesis of experimental colitis in mice. J Gastroenterol Hepatol 18 : 5 : 578-587, 2003
4. 前川真人, 谷口照美, 立林千夏, 堀井俊伸, 竹下明裕, 梶村春彦, 菅野康吉, 米川裕之, 長岡智紀, 菅野剛史「3次元マイクロアレイシステムによるK-rasコドン142の変異解析に関する基礎的検討」臨床病理 51 : 4 : 306-312, 2003

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. Vineis P, Veglia F, Benhamou S, Butkiewicz D, Cascorbi I, Clapper ML, DOLzan V, Haugen A, Hirvonen A, Ingelman-Sundberg M, Kiyohara C, Kremers P, Le Marchand L, Ohshima S, Pattorelli R, Rannug A, Romkes M, Schoket B, Shields P, Strange RC, Stucker I, Sugimura H, Garte S, Gaspari L, Taioli E : CYP2A1T3801 C polymorphism and lung cancer : a pooled analysis of 2451 cases and 3358 controls. Int J Cancer 104 : 5 : 650-657, 2003

2. Le Marchand L, Guo C, Benhamou S, Bouchardy C, Cascorbi I, Clapper ML, Garte S, Haugen A, Ingelman-Sundberg M, Kihara M, Rannug A, Ryberg D, Stucker I, Sugimura H, Taioli E : Pooled Analysis of the CYP1A1 exon7 Polymorphism and Lung Cancer (United States). : Cancer Causes Control 14 : 4 : 339-346, 2003
3. Liu Y, Yoshimura K, Yamaguchi N, Shinmura K, Yokota J, Katai. H. Causation of Borrmann type 4 gastric cancer : heritable factors or environmental factors? Gastric Cancer 6 : 17-23, 2003.
4. Yamane A, Shinmura K, Sunaga,N, Saitoh T, Yamaguchi S, Shinmura Y, Yoshimura K, Murakami H, Nojima Y, Kohno T, and Yokota J. Suppressive activities of OGG1 and MYH proteins against G : C to T : A mutations caused by 8-Hydroxyguanine but not by benzo[a] pyrene diol epoxide in human cells *in vivo*. Carcinogenesis 24 : 1031-1037, 2003.
5. Yabuta T, Shinmura K, Yamane A, Yamaguchi S, Takenoshita S, and Yokota J Effect of exogenous MSH6 and POLD1 expression on the mutation rate of the *HPRT* locus in a human Colon cancer cell line with mutator phenotype, DLD-1. Int J Oncol,24 : 697-702, 2004.

(2) 論文形式のプロシーディングズ

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 五十嵐久喜, 梶村春彦 貼り付け倒立包埋法の考案 医学検査 53 (1) : 52-56, 2004
2. 加茂隆春 組織標本アレイヤー (Beecher Instruments社) で作製したブロックの融合化 病理技術 67巻1号

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

(3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 中村律子, 梶村春彦 大腸癌の診断と治療 — 最新の研究動向 — 日本臨床 61 : 7 : 91-94. 2003
2. 梶村春彦 胃癌の家族集積と遺伝子多型 臨床消化器内科 19 : 333-340, 2004
3. 渡辺良久, 梶村春彦 遺伝子多型 特集, 病理診断における分子生物学 病理と臨床 22 : 43-46, 2004

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

(4) 著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 分子予防環境医学（分担） 分子予防環境医学研究会編 本の泉社 II-5 f 肺癌

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

(5) 症例報告

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. 松田宏幸, 千田金吾, 三輪清一, 中野秀樹, 桑田博史, 鈴木研一郎, 横村光司, 朝田和博, 中村祐太郎, 乾 直樹, 須田隆文, 中村浩淑, 内藤恭久, 梶村春彦 肺腫瘍塞栓症による肺性心が初発徴候であった胃癌の1部検例 日本呼吸器学会雑誌 40:11:910-914, 2003
2. Nakamura T., Nakamura R., Maruyama K., Fukuzawa A., Uno A., Hayashi T., Higashi Y., Hosoda Y., Nakamura S.: Refractory Ulcerative Colitis Complicated by a Cytomegaloviral Infection Requiring Surgery: report of a case. Surg Today: 34:1:68-71, 2004

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. Tanioka F, Tamashima S, Shimizu S, Kobayashi H, Kobayashi Y and Sugimura H: A Case of Primary Plasma Cell Leukemia with Hair-cell Morphology and Lambda-type Bence-Jones Protein. Immunohistochemical and Molecular Analysis. Jpn J Clin Oncol 33:5:232-237, 2003

4 特許等の出願状況

	平成15年度
特許取得数（出願中含む）	0件

5 医学研究費取得状況

	平成15年度
(1) 文部科学省科学研究費	2件 (2,000万円)
(2) 厚生科学研究費	3件 (400万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0件 (0万円)
(4) 財団助成金	2件 (225万円)
(5) 受託研究または共同研究	0件 (0万円)

(6) 奨学寄附金その他（民間より）	1件 （ 440万円）
--------------------	-------------

(1) 文部科学省科学研究費

梶村春彦（代表者）基盤研究（B）胃癌の個体感受性に関する分子病理学的研究 550万円

梶村春彦（代表者）特定領域研究（2）代謝酵素遺伝子多型に基づいた宿主・環境相互作用と発癌感受性の研究 1,450万円

(2) 厚生科学研究費

梶村春彦（分担者）環境化学発がん物質の曝露評価法の開発及び疫学研究への応用による発がんリスク評価に関する研究 160万円

渡辺良久（分担者）肺腺がんの発生と特性の解析に関する研究 140万円

新村和也（分担者）発がん機序に基づいた胃がんの予防に関する研究 100万円

(4) 財団助成金

梶村春彦（代表者）ニコチン依存の形成に関する要因の研究 — 遺伝子多型の影響について — 200万円

新村和也（代表者）がんその他の悪性新生物研究助成金「がん分子疫学基盤情報としての遺伝子スプライス部位多型血に基づく酵素活性の個体差に関する研究」25万円

6 特定研究などの大型プロジェクトの代表，総括

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0件	0件
(2) シンポジウム発表数	3件	1件
(3) 学会座長回数	1件	2件
(4) 学会開催回数	0件	1件
(5) 学会役員等回数	0件	0件
(6) 一般演題発表数	1件	

(1) 国際学会等開催・参加

3) 国際学会・会議等でのシンポジウム発表

Sugimura H, Chromosomal instability in lung adenocarcinoma and adenomatous hyperplasia. In NIH seminar. NCI Bldg 36, ベセスダ, 米国 2003.7.12

Nakamura R et al. Eph/Ephrin system in gastric cancer. Kyonpook-Hamamatsu joint symposium, Daegu, Korea, 2003.11.15

Nakamura R. et al. EphA2/EphrinA1 in gastric cancer. AACR-JCA joint meeting. ハワイ島, 米国 2004.1.25

4) 国際学会・会議等での座長

Sugimura H. Kyonpook-Hamamamtsu symposium, Daegu, Korea, 2003.11.15

5) 一般発表

ポスター発表

Otsuki Y, Tanaka M, Kamo T, Kitanaka, C, Kuchino Y and Sugimura H. Guanine Nucleotide Exchange Factor, Tiam1, Directly Binds to c-Myc and Interferes with c-Myc mediated Apoptosis in Rat-1 Fibroblasts. AACR, 2003.7, ワシントン, 米国, 2003.7.11

(2) 国内学会の開催・参加

1) 主催した学会名

第3回 日本がん分子疫学研究会

3) シンポジウム発表

梶村春彦 肺前癌病変の染色体不安定性 日本病理学会

4) 座長をした学会名

日本癌学会, 日本病理学会

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

日本癌学会評議員, 日本病理学会学術評議員, 日本がん分子疫学研究会 世話人, 監事
日本家族性腫瘍研究会世話人, 日本胃癌学会評議員

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数 (レフリー数は除く)	0件	0件

(3) 国内外の英文雑誌のレフリー

Cancer Science (3回, 日本), Cancer Letter (2回, 日本), Pathology International (2回, 日本), Carcinogenesis (2回, 米国), Cancer Research (2回, 米国), J. Canre Research and Clinical Oncol (2回ドイツ)

9 共同研究の実施状況

	平成15年度
(1) 国際共同研究	2件
(2) 国内共同研究	3件
(3) 学内共同研究	3件

(1) 国際共同研究

江蘇省上部消化管癌の遺伝的感受性について (江蘇省腫瘍研究所, 1997-現在) 試料, 研究者

の派遣，研究成果は2002年の報告を参照

Cyp1A1の肺癌感受性に関する分子疫学（ハワイ，イタリアなど，1998－現在），dataの交流
研究成果は本年度研究成果の報告を参照

原著

Vineis P, Veglia F, Benhamou S, Butkiewicz D, Cascorbi I, Clapper ML, DOLzan V, Haugen A, Hirvonen A, Ingelman-Sundberg M, Kiyohara C, Kremers P, Le Marchand L, Ohshima S, Patarelli R, Rannug A, Romkes M, Schoket B, Shields P, Strange RC, Stucker I, Sugimura H, Garte S, Gaspari L, Taioli E. : CYP2A1T3801 C polymorphism and lung cancer : a pooled analysis of 2451 cases and 3358 controls. Int J Cancer.104 : 5 : 650-657, 2003

Le Marchand L, Guo C, Benhamou S, Bouchardy C, Cascorbi I, Clapper ML, Garte S, Haugen A, Ingelman-Sundberg M, Kihara M, Rannug A, Ryberg D, Stucker I, Sugimura H, Taioli E. : Pooled Analysis of the CYP1A1 exon7 Polymorphism and Lung Cancer (United States). : Cancer Causes Control. 14 : 4 : 339-346, 2003

(2) 国内共同研究

胃癌，肺癌，大腸癌のハイリスク多型について（九州大学，国立がんセンター，東邦大学など）
（2000－）研究試料の利用。研究成果は来年度掲載予定。

(3) 学内共同研究

消化器癌，肺癌の分子病理（それぞれ学内当該分野の臨床医師）研究成果は来年度掲載予定
がん感受性あるいは，喫煙行動の遺伝疫学的研究（看護学科）研究成果は来年度掲載予定。

10 産学共同研究

	平成15年度
産学共同研究	1件

1. 可視化遺伝子診断キットの開発（株式会社常光）JST委託開発事業

11 受賞

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

詳細は論文そのものに譲るが，今年度は，長年腫瘍とのかかわりで，研究を続けてきた分子群の生物学的性格や，また環境因子との相互作用が明らかになった。また，これらの分子は，がん感受性遺伝子として遺伝的解析により想定される領域にあるものもあり，さらに興味をもたれる。また，あらたに分子疫学的な検体収集を本学臨床看護の教官とともにはじめた。

13 この期間中の特筆すべき業績，新技術の開発

浜松医大COEプロジェクト メディカルホトニクス－こころとからだのリスクを探る－が採択さ

れ、本教室はそのからだのリスクの部分を中心に担当することになっている。これは、以前からおこなってきたテーマ、ハイリスク群の同定さらに早期病変のFISH法による解析、また、テレパソロジーの事業化などをふくむものである。独自に開発したFISH法はそれを製品化に応用する事業がJSTから採択されて、大きな責任がかかっている。

COEプロジェクトにより、あらたに、特別に研究補助員、若手大学院生のRAなどが採用されている。

さらに、医員であった若手研究者が学術振興会の特別研究員（PD）に高い評価を得て採用され、研究活動の中心的役割を果たしている。分子疫学解析のなかには、きびしい競争をくぐりぬけ、世界でいち早く見いだしたものなどもあり、内容は来年度の報告書にゆずるが、さらなる発展が期待される。

14 研究の独創性、国際性、継続性、応用性

依然として、がんの分子疫学分野、遺伝環境の相互作用などが特色ある教室のテーマとして評価されることが多く、研究費のすべてはその分野に関係するものである。論文として発表してきたもののうち生物学的な成果については（これ自体は非常に好ましいことであると思っているが）これを、散発的なものにとどまらず、さらに一貫性をもって発展させ、一分野を切り開き、（はやくいえば、その領域でも研究費がとれるような）影響力のあるようなかたちにしていくことも、とくに若い世代には期待したい。

がんのハイリスク群の同定や、早期病変の解析は、いうまでもなく応用性の強いテーマであり、本年採用された1件の委託事業を製品化ができるかどうか、期待と懸念あいなかばする状況である。国際性については、JICAの講義などを通じた、諸外国の研究者とのつながりや、アジア地域の分子疫学の同僚からの招きもあり、ゆっくりと当該分野の拠点的研究室をめざしたいと思う。

15 新聞、雑誌等による報道

JST事業化課題については、press releaseがおこなわれている。